ウナギ産卵場生態調査
III.ウナギ親魚の形態、年齢、生活履歴

°望岡典隆・田和篤史（九大院農）・青山　潤・篠田　章・塚本勝巳（東大海洋研）・橋本　博（水研セ志布志セ）・神保忠雄・加治俊二（水研セ南伊豆セ）・高橋正知・岡崎　誠・張　成年・黒木洋明（水研セ中央水研）

【目的】西マリアナ海嶺南部海域において捕獲されたウナギ成魚の形態、年齢、生活履歴を明らかにする。
【方法】2008 年水産庁調査船開洋丸によるウナギ航海(KY-08-2, KY-08-4)によって捕獲されたウナギ４個体について、体各部の測定、耳石（扁平石）による年齢査定ならびに波長分散型マイクロアナライザーによる微量元素分析より生活履歴を推定した。
【結果】６月に捕獲された雄２個体の全長(cm)は48.5, 51.3、脊椎骨数はそれぞれ115と114であった。体は全体に黒く、沿岸域の下りウナギに見られるような腹部のいぶし銀様光沢は認められなかった。Eye indexはそれぞれ7.5, 8.8、胸鰭長/全長比は5.6, 5.3で河口域の下りウナギよりも大きい傾向がみられ、背鰭鰭条長/全長比はそれぞれ1.5, 1.6で沿岸域の下りウナギよりも小さい傾向が見いだされた。耳石による齢査定から、これらはそれぞれ6才、5才と推定された。８月に捕獲された雌２個体の全長(cm)は55.5, 66.3で、脊椎骨数はそれぞれ117と114であった。体は褐色を帯びた黒色で、腹部にいぶし銀様光沢は認められなかった。Eye indexはそれぞれ6.4, 5.1、胸鰭長/全長比は5.0, 5.3で河口域の下りウナギがもつ値の範囲内であった。年齢はそれぞれ6才,11才と推定された。耳石の核から縁辺部におけるSr/Ca比より、両雄個体と雌55.5cmの個体は淡水履歴をもち、河川、汽水域、海域を行き来していたことが示唆されたが、66.2cmの個体は淡水履歴が検出されず、海ウナギであることが示された。